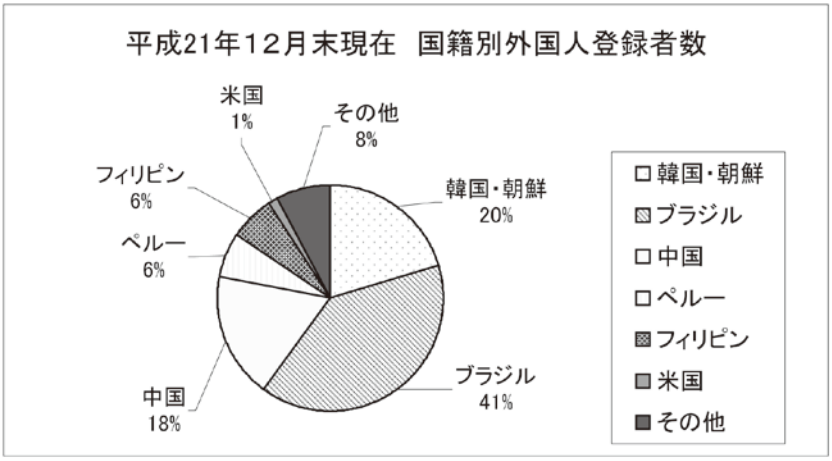
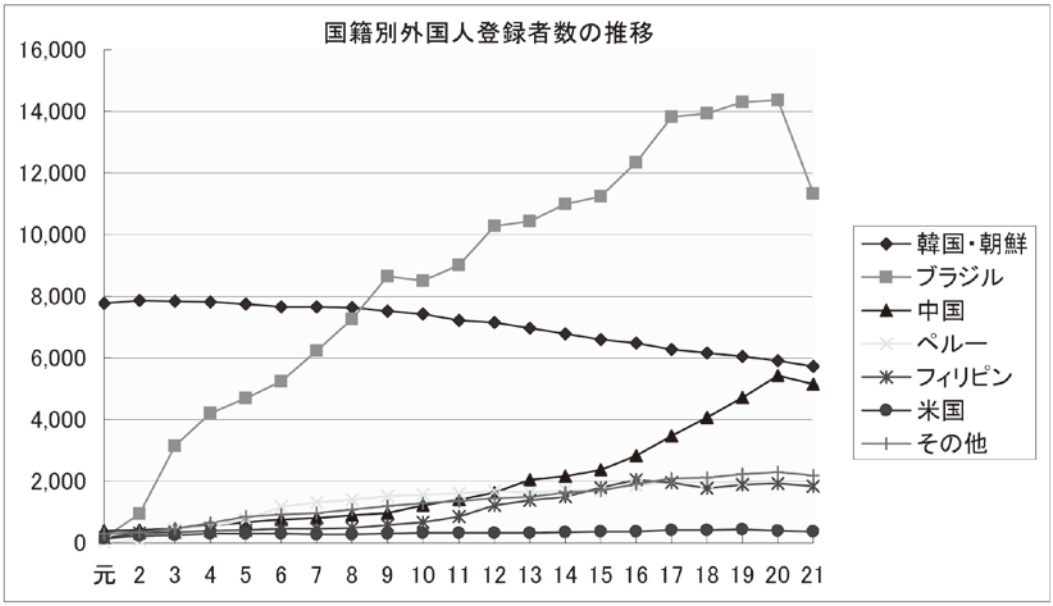
滋賀県における外国人登録者数

財団法人滋賀県国際協会　作成



国　籍	登録者数
韓国・朝鮮	5,735 人
ブラジル	11,339 人
中国	5,144 人
ペルー	1,808 人
フィリピン	1,828 人
米国	374 人
その他	2,194 人
合計	28,422 人



外国人登録者数の比率が2%以上の市町村　（平成21年12月末現在）

	市町村名	外国人登録者数	総人口	外国人比率	備考（上位3国籍）
1	愛荘町	1,003	20,642	4.86	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ662人、中国127人、フィリピン64人
2	湖南市	2,621	55,550	4.72	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ1,488人、韓国・朝鮮366人、ﾍﾟﾙｰ331人
3	長浜市	3,645	84,483	4.31	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ2,447人、ﾍﾟﾙｰ328人、中国294人
4	甲賀市	2,863	95,238	3.01	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ1,401人、中国470人、ﾍﾟﾙｰ323人
5	東近江市	3,489	117,709	2.96	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ2,137人，中国416人、韓国・朝鮮304人
6	虎姫町	120	5,694	2.11	ﾌﾞﾗｼﾞﾙ68人、ベトナム20人、中国　8人
	県全体	28,422	1,415,257	2.01	

※滋賀県商工観光労働部国際課の調査に基づく。
※県民50人(49.8人)に1人が外国人　　（H21年12月末現在の統計から）

「国際教育研究会 Glocal net Shiga（ぐろーかる ねっと しが）」について

私たち、「国際教育研究会 Glocal net Shiga（ぐろーかる ねっと しが）」は平成15年（2003年）4月に立ち上がったグループです。名前にある **“Glocal”** とは **Global＋Local** を結びつけた造語です。**“Think Globally, Act Locally”（地球規模で考え、地域から行動する）**という開発教育／地球市民教育／グローバル教育の地域社会に対する考え方を現すことばがあり、地球と地域を結ぶことばとして生まれました。

このような考え方をうけ、地元滋賀（Shiga）で地域に根ざした人たちをつなぎ（Network）、みんなで一緒に地球市民を育む活動に取り組んでいきたいという思いが込められています。

会のねらいについて

- ○ 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること **多様性の尊重**
- ○ 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと **多文化共生社会づくり**
- ○ 世界と自分はつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること **相互依存関係の理解**
- ○ 地球的課題を解決するために行動すること **公正・平和な社会づくり**

など

こうしたことをねらいとして、さまざまな実践方法（おもに参加型学習法）を学びながら、国際教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊OVなど、さまざまな立場や経歴の持ち主が参加しています。これまでに滋賀県の特色を生かした題材をとらえ、「ブラジルボックス」・「カルタ“わたしん家（ち）の食事から”」などの教材を開発してきました。また、より多くの方に国際教育を体験していただくよう年数回、国際教育ワークショップを開催しております。今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

入会について

毎月１回日曜日に例会を開催しています。さまざまな経歴のメンバーが集まるクラブ活動のような会です。渡航経験や語学については、まったく心配していただく必要はありませんので、この研究会にご関心のある方は、お気軽に下記までお問い合わせください。

国際教育・開発教育についての企画相談、講師派遣も随時承ります。

＜お問合せ先＞
財団法人滋賀県国際協会　担当　大森
〒520-0801　滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海２階
電話：077－526－0931　ﾌｧｯｸｽ：077－510－0601
E-mail：omori@s-i-a.or.jp

平成21年度（2009年度）の活動について

開催日	内　　容
4／19	今年度「国際教育ワークショップ」内容検討、メンバーよりブラジル籍住民の実態調査結果報告 新作国際教育教材　災害編デモンストレーション
5／24	「国際教育ワークショップ」での新教材デモンストレーションの進行内容の確認 新教材　発展版について意見交換、稲枝中学出前講座打合せ、開発教育協会滋賀フィールドスタディ受け入れについて話し合い
6／6	滋賀県総合教育センター「初任者研修」についての話し合い、研修の流れについて
6／13・14	滋賀県国際協会主催　国際教育ワークショップにおいて新教材のデモンストレーション 総合教育センター　初任者・10年経験者選択研修について話し合い 大津市教育委員会学校教育課主催「人権教育推進員研修」について話し合い 新教材づくり合宿（「カタストロフォイ」、「読めないお知らせ」開発経緯について紹介を受ける）
7／26	総合教育センター　初任者・10年経験者選択研修について最終確認、 新教材づくり メンバーより映画「ダーウィンの悪夢」をテーマにしたオリジナル教材のデモンストレーション
8／6	大津市教育委員会「平成21年度幼稚園及び小・中学校人権教育合同研修会」での「100人村ワークショップ」出前講座
8／8	（特活）開発教育協会全国研究集会　自主ラウンドテーブルにおいて新教材デモンストレーションを実践
8／11	総合教育センター「初任者・10年経験者選択研修」において、「開発教育概論」、「カルタ わたしん家の食事から」、「読めないお知らせ」、「県内外国籍住民の現状説明」を実践
8／23	総合教育センター主催「初任者・10年経験者選択研修」、大津市教育委員会学校教育課主催「人権教育推進員研修」、開発教育協会全国研究集会自主ラウンドテーブル　報告 新教材づくり、JICA推進員よりJICA教師海外研修タンザニア訪問報告
9／23	新教材づくり 滋賀県国際協会設立30周年記念事業プレイベントについて話し合い
10／3	滋賀県子ども・青少年局事業「出会い・発見　GENKIフェスティバル’09」にて活動紹介
10／18	新教材づくり 滋賀県国際協会設立30周年記念事業プレイベントについて話し合い 開発教育協会滋賀フィールドスタディについて話し合い
11／15	新教材づくり、湖南市立三雲東小学校での新教材デモンストレーションの様子を報告 滋賀県国際協会設立30周年記念事業プレイベントについて最終打合せ 近畿ブロック高校生国際交流セミナー　出前講座について話し合い 開発教育協会滋賀フィールドスタディについて話し合い
11／29	滋賀県国際協会設立30周年記念事業プレイベントとして「100人村＆ここは、何色？ワークショップ」を実践
12／13	新教材づくり　ぬりえ図柄案について、教材セット内容について確認
12／19	2009年度　開発教育連続セミナー　ファシリテーターのための実践講座にて、新教材「非識字体験ゲーム『ここは、何色?』」を実践 高等学校国際教育研究協議会主催近畿ブロックセミナーにて「ブラジルボックス」・「100人村ワークショップ」実践
12／26	新教材づくり　解説書の内容確認作業
1／24	開発教育協会主催　滋賀フィールドスタディ参加者と新教材デモンストレーション体験 次年度総合教育センター　初任者・10年経験者選択研修について話し合い
2／27	京都市立堀川高校　高校生ゼミ活動の実践 次年度の活動について
3／28	次年度　新教材づくりについて

初任者・10年経験者選択研修

堀川高校生による実践発表

国際教育研究会 Glocal net Shiga 開発教材　第３弾

非識字体験ゲーム

「ここは、何色？」「はじめてのお見舞い」

１セット 2,000円
（滋賀県国際協会会員価格 1,500円）

対象：小学３年生以上

世界の言葉や文化の多様性、
開発途上国の実情、
地域の多文化共生への理解など、
様々なテーマに合わせて
ご自由にお使いください。
国際教育、人権教育、
外国語活動などの授業や講座など、
幅広く活用いただける教材です。

開発途上国などでは子どもや女性の識字率の低さが、依然として大きな課題となっています。
また、現在の日本国内においても、多くの外国籍住民が言葉の壁に苦慮しながら生活をしているという実態があります。
これは、言葉がわからないことから生じる不安な気持ちや、そのことからどのような不利益を被るかなどを疑似体験できるワークショップ教材です。その学習が、すべての人にとって暮らしやすい多文化共生の学校、まち、社会づくりのために必要な取り組みについて考えるきっかけになればと願っています。

付属 CD（補助資料）には下記の物が収録されております。

ワーク素材（各種ワークシート、多言語色辞書 等）
世界の言語分布について パワーポイント
外国人学生の体験談 ①②
自治体での多文化共生に向けた取り組み例について
ネパールの識字教室等の写真および動画
ネパール・デウクリ地区タルー族
　　福祉委員会日本事務所よりコラム
ネパール・デウクリ地区タルー族女性の夢

＜セット内容＞

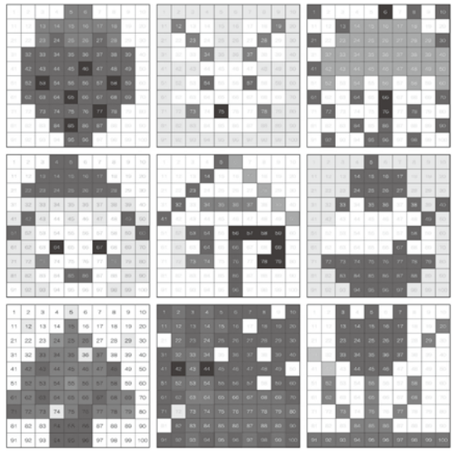
1．解説書
2．付属 CD
3．多言語色辞書ポスター A3 サイズ 12 枚
　12 言語（中国語、英語、スペイン語、ヒンディ、ロシア語、アラビア語、ポルトガル語、ハングル、ドイツ語、フランス語、タイ語、タガログ語）
4．タイ語カード A4 サイズ 32 枚
　行き先、果物、色、品物カード 全 32 種

お問合せ先……
財団法人 滋賀県国際協会
〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
電話 077−526−0931　Fax 077−510−0601　E-mail siamail@mx.biwa.ne.jp

導入ワーク「ここは、何色？」

世界にはさまざまな言語があります。一見すると模様や記号にしか見えないものが、学ぶことで意味を持つ“ことば”として理解できるようになるものです。多様な言語に触れる楽しみや、字が読めずに理解できない歯がゆさを子どもから大人まで感じられるように「ぬりえ」という簡単なゲームで体験します。

さまざまな言語で書かれた色の名前を付属の多言語色辞書を使いながら解き明かし、指定された１００マスの目に色を塗ると、いろいろな図柄が浮かび上がる楽しいアクティビティです。



出来上がる図柄の例

発展ワーク「はじめてのお見舞い」

人は、言葉が通じない相手にどのように物事を伝えようとするか、またわからない言葉で何かを伝えようとしている人にどのように対応するのかを疑似体験するゲームです。

伝えたい、伝わらない、わかってあげたいのだけれども、わからないといった歯がゆさや、あまりわからないながらも、通じ合えた喜びなどを体験します。

買いたい品物をジェスチャーで伝える子どもたち

言葉の通じない国で、
指示された買い物をすませて、
無事にゴールの病院まで
たどりつけるかな？

このワークを体験した方々の感想（抜粋）

子どもたちが楽しそうにしている姿が見られるよいプログラムです。文化、伝統、コミュニケーションのもととなる言葉の大切さが体験・勉強できてよかったです。

アラビア語やタイ語などは字なのかな…と思うぐらい日本語とはかけ離れていて、これが読めたり書けたりしたらかっこいいだろうなと思いました。

文字が読めないから、ジェスチャーをよく見て、発音や言葉にヒントが隠れていないかに気を付けた。

外国の友だちが学校に来たら、その子がしゃべっている言葉が何語かを調べて、その言葉をなるべく覚えて友だちになりたい。自分も頑張って外国の言葉を覚える。

自分が日本語を指導している外国籍の子どもたちには、ひらがな・カタカナ・漢字、時にはアルファベットが混ざる日本の文章は、さぞかし難解なものなのだろうと改めて感じることができた。

いろいろな国の言葉があったけど、意外と似ているのも多くて面白かった。

（同級の外国籍生徒の体験談を聞いて）日本語をしゃべれなくて苦労していたことをはじめて知った。今は、下校中日本語で話しながら帰っているし、みんなと仲良く遊べていることが不思議に思った。すごいと思った。

ジェスチャーをして自分がわかっていても、相手がわかっていないと意味がないという不安でいっぱいだった。

字が読めない生活をしたことがない私にとっては、よい経験になりました。非識字について考えるきっかけになったと思います。

宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。
宝くじは広く社会に役立てられています。

（財）滋賀県国際協会設立30周年記念事業プレイベント　国際教育ワークショップ

「いろんな国の人たちと一緒に楽しもう！世界がもし100人の村だったら ＆　非識字体験ゲーム　ここは、何色？　ワークショップ」

開催日　平成21年11月29日(日)　　会場　ピアザ淡海　204会議室　　参加者　52名

世界の多様な言葉に親しむと同時に、文字が読めない気持ちを疑似体験することをねらいとするワークショップを開催しました。

まず、「世界がもし100人の村だったら　ワークショップ版」から世界で使われている様々な言葉を知るアクティビティを体験しました。参加者一人一人に配布されたカードには、世界のさまざまな挨拶の言葉がかかれています。

同じ挨拶の仲間を探す参加者たち

一番多かったのは、中国語のグループ

参加者は、カードに書かれた挨拶を大きな声で発しながら、会場内を移動しながら同じ挨拶をする仲間を探すというものです。結局、参加者の半数以上は仲間の見つからない少数派となってしまいました。

こうした少数言語が、今インターネットの普及等が原因で、この世から消えようとしている現実について紹介され、参加者は「うーん。」と感慨深い様子でした。

また、当日は県内にお住まいのアメリカ、イエメン、タイ、中国、フィリピン、ブラジル、フランスの7カ国の方々をゲストに招きました。まず、ゲストからそれぞれの国で使われている挨拶の言葉「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」を教えてもらいました。

各国の挨拶を教えてもらいました

タイの挨拶　手を合わせて「コップンカー」

その後、「非識字体験ゲーム　『ここは、何色？』」を体験。各国のゲストには『生きている辞書役』となっていただき、参加者は直接ワークシートに書かれた各国語の色の表記を教えてもらいました。

フィリピンで使われるタガログ語

理解できそうでわからない中国語

タイ語って文字がおもしろいね

アラビア語は、右から読むんだよ

フランス人親子にフランス語を教えてもらって

ブラジルはポルトガル語

何色と書かれていたかを教えてもらったら、その情報に従い100マスワークシートに塗りこむと、かわいい図案が浮かび上がりました。参加した小学生はもちろん、保護者の方たちも楽しい時間を過ごされました。

参加者からのアンケートには、さまざまな感想が寄せられました。

教えてもらった情報に従い、
ぬりえをする参加者

- おもしろかった。楽しかった。色をぬっていたら、クリスマスツリーになってきました。いろいろな国の人としゃべれた。ことばがむずかしかった。
- 言葉をしゃべるのはむずかしかったけど、わかるとうれしかったです。国によっても、男と女でしゃべり方がちがうのは、びっくりしました。
- いろいろな国の言葉があったけど意外と似ているのも多くて面白かった。あと、今度紅花を粉砕したら本当にピンクになるのか試してみたいです。（中国語の「粉紅色」がピンクだったので。）
- 子どもたちが楽しそうにしている姿が見られて、よいプログラムです。文化、伝統、コミュニケーションのもととなる言葉の大切さが体験学習できてよかったです。
- 英語ですらおぼつかない状態ですが、数千ある言語を覚えられる訳でなし、挨拶一つを交わす努力をすれば、コミュニケーションできるのがわかり、よかったと思います。

非識字体験ゲーム「はじめてのお見舞い」デモンストレーション

協力校　湖南市立三雲東小学校　6年1組　　開催日　21年10月20日(火)

人は、言葉が通じない相手にどのように物事を伝えようとするか、またわからない言葉で何かを伝えようとしている人にどのように対応するのかを疑似体験するゲームです。伝えたい、伝わらない、わかってあげたいのだけれども、わからないといった歯がゆさや、あまりわからないながらも、通じ合えた喜びなどを体験します。

[設定]あなたは、お父さんの仕事の都合で、言葉もわからない外国で暮らし始めたばかり。ある日、学校から帰ると、「おばあちゃんが事故に遭い、隣街の病院に入院することになった」と、お母さんからの置き手紙が机の上にありました。となりの町の病院まで、お母さんの手紙に書かれた買い物リストを片手に頼まれた買い物をすませ、無事に病院へたどりつくことができるでしょうか？

＜ゲームの流れ＞

- 「主人公役」になる第1グループに教室（会場）の前に出るように指示し、課題の内容（八百屋に行く）をこっそりと伝える。
- 「町の人役：バスの車掌」グループには、タイ語で書かれた「行き先カード」を1枚ずつ配布し、「主人公役」グループに向けて一斉に見せるよう指示する。
- 「主人公役」解答レベルを選ばせる。

[解答レベル３～レベル１]

レベル	解答の方法	当たった場合（加算額）	外れた場合（減算額）	パスした場合
レベル３	他の班が手に持つ標示を見るだけで答える	＋30	－30	±0
レベル２	他の班が読み上げる標示の音を聞いて答える	＋20	－20	±0
レベル１	ジェスチャーなどを使って、自分の行きたい場所や買いたい品物を伝えて答える	＋10	－10	

レベル２　タイ語カードを読み上げる

レベル３　「主人公役」グループに対して：

「では、ジェスチャーなどを使って、自分の行きたい場所を伝えてください。そして、『町の人役』グループが手招きしてくれる合図を参考に、答えを1つ選びましょう。」

「町の人役」グループに対して：

「『主人公役』のジェスチャーなどを見て、自分たちのカードに書かれている内容を伝えようとしていると思ったら、手招きして呼んであげましょう。」

レベル１　ジェスチャーで伝える
「歯ブラシ」が買いたいことを伝える生徒たち

☆ジェスチャーを理解してあげることができ、正解に導くことができた車掌グループにも＋10ptsが与えられる。

- 各班に配布した「行き先カード」を回収し、所持金集計表に記録する。
- 次に、「主人公役」になる第２グループに前に出てくるよう指示し、同様の手順でゲームを進める。
- 所持金集計表を使って、各グループの所持金を確認。
- 最後に、行き先カード全種類（もしくは複数枚）を黒板などに掲示して、参加者全員に「病院行き」のバスの標示を1つ選ばせる。

“ちゃんと病院行きの正しい標示を覚えているかな？”

- クラスに在籍している日系ブラジル人生徒の体験談をインタビューする。
- 最後に、ふりかえりシートに記入。

生徒の感想（一部抜粋）

- ➢ 言葉を知らないと、とても大変だったし、字が何て書いてあるかがわからなかった。相手に伝えるということが一番苦労した。
- ➢ 文字が読めないから、ジェスチャーをよく見て、発音や言葉にヒントが隠れていないか気をつけた。
- ➢ （日系ブラジル人クラスメイトの話を聞いて）日本語を分かっているR君はすごいと思った。そんなに困っている時があったなんて知らなかった。
- ➢ （外国の友だちが日本に来たら…という設問に対して）遊びのルールが通じなくてもみんなで1回やれば分かるかもしれないので1回やってみる。
- ➢ 外国の友だちが学校に来たら、その子がしゃべっている言葉が何語かを調べて、その言葉をなるべく覚えて、友だちになりたい。
- ➢ 日本のことや学校のことなどを、絵やジェスチャーなどでがんばって伝える。

滋賀県国際協会設立30周年記念事業　記念講演会

テーマ　「100人の村のわたし・たち～いろいろな人がいるこの村で～」
講　師　「世界がもし100人の村だったら」再話者　池田　香代子さん

開催日時　2009年12月12日(土)　14:00～15:30　参加者　約140名

▲　講師　池田　香代子さん

「この本をなぜ出したのか、出してからどんなことを知ったり感じたりしてきたかを縦軸に、皆様と一緒に国際交流ということを、世界の中で私たちが生きるとはどういうことかということを考えていきたいと思います。」と、ちょうど8歳を迎えたばかりの著書『世界がもし100人の村だったら』を手にされた池田さんのお話が始まりました。

＜お話のポイント＞

- この本は当初、アフガニスタンで活動されているペシャワール会の中村哲さんが呼びかけられていた緊急募金に支援することを目的に作った。思いもかけず多くの印税を手にすることになり、「100人村基金」を立ち上げ、国際NGO等の支援を行っている。
- 「世界にはいろんな人がいる。ひとりひとりが大切ですね」というのが、この本の大きなメッセージであるはずが、『100人村』に縮められたことで、少数派を切り捨てるという矛盾が起こっていたので、2作目ではこの話の原作どおり『1000人村だったら』を解説書として出版した。
- 『1000人村』では、「5人の兵士、7人の教師、1人の医者がいます。年間300万ドルをわずかに超える村の予算のうち、18万1000ドルが武器や戦争に、15万9000ドルが教育に、13万2000ドルが医療にあてられます。」という記述がある。原案者のドネラ　メドウズさんの言いたかったことは、「人やお金は、戦争ではなく、教育や医療に用いるべきではないでしょうか」ということ。
- なのに、今わたしたちの国は、医療費も教育費も先進国で最低レベル。こういうところを手厚くしないと、この国はどうにかなってしまうと懸念している。
- 世界では、65億人のうち10億人が飢餓状態となっていて、このままでよいはずがない。世界の貧富の差を縮めるには、途上国の女子に初等教育を受けさせることが解決策といわれている。それは、マイクロクレジット※の借り手の97％が女性であり、この支援を受けるには申込書や返済計画書を書く必要があるため、基礎的な読み書き計算が欠かせないからである。支援が受けられれば、貧困から抜け出す大きな力となる。
- また、初等教育を受けた子どもが生涯子どもを産む数は、そうでない子の半分であると言われている。文字が読めるようになると、自分に自信をつけて、自分の考えを表明するようになり、計画的な出産をすることで、貧困の再生産をしなくてすむという。
- 途上国の人々は、かわいそうなみじめな人たちではない。途上国を訪れるたびに、彼らが本当に献身的で、地域社会の共同体のために自分に何ができるだろうかと考えている志の高い・誇り高い人々であると教わる。

※マイクロクレジット…バングラデシュのグラミン銀行から始まった“小額無担保融資”。最も持続的で効果的な貧困削減の手段とされ、いま世界中から注目が集まっている。

- 日本の食料自給率は、カロリーベースで40％、重量ベースで20％。食料廃棄率も20％なので、日本国中の田んぼや畑や果樹園で育てられたのと同じ重さの食料を捨てていることになる。もったいない。そしてこれは、水の問題にもつながる。輸入食料を育てるために、日本中で使っている水の1.1倍の水が日本国外で使われており、世界の安全な水の確保は大きな問題となっている。
- エネルギーについて、日本は地熱活用の技術を備えていて、自然エネルギーへシフトは十分可能だということを知った。原子力発電から出る放射性廃棄物のウランからは、劣化ウラン弾が作られている。塵状になったウランは水や作物に浸透し汚染していく。地面に近いところに沈殿するので、子どもたちが重金属中毒や体内被ばくしてガンを発症している。

最後に本の一節を朗読されました。

「ドネラ・メドウズは言いました。
貧しい人々がしあわせになるためには金持ちになる必要はない、
５つのことが満たされればいい、と。
　１つめは、きれいな空気と土と水
　２つめは、災害や戦争のためにふるさとを離れなくてすむこと
　３つめは、予防をふくむ基礎的な医療をうけられること
　４つめは、基礎的な教育をうけられること
そして５つめは、伝統文化に誇りをもち、それらを楽しむことができること
この５つがあるところでは、そのまん中に子どもたちの笑い声があふれているはずです。もちろん、大人たちの笑顔も」（「世界がもし100人の村だったら　④　子ども編」より）

- （「インドの子どもたちの宣言」〈ジャイプール宣言〉※ 2006年を例に挙げ、）子どもの意見表明権は子どもの権利条約の真ん中にある考えだと思う。日本の子どもたちはこの権利があることすら知らない。権利があることを伝えなくてはならない。そして、同じ権利を踏まえた子どもたち同士が交流・理解を深めて、これからの世界をどうしたらよいかという提案を出してくる。大人には、それに真摯に耳を傾ける義務がある。子どもたちの育ちをバックアップしていける大人になれるといいなと思う。
- 実際に、そういう若者たちが確実に育っていると感じている。たくさんの若者たちが世界各地で公正で勇敢な日本人と評判を上げてくれている。彼らを支援できるように私もがんばっていきたいと思う。

貧困、国際協力、平和、食料、環境と、多岐にわたったすばらしいお話でした。

※ジャイプール宣言…2006年インドで働く子どもの代表から出された宣言。全ての子どもが自らの権利を得て、児童労働をなくし、無償義務教育を平等に受けられることを実現するための明確な指針となっている。

非識字体験ゲーム「ここは、何色？」「はじめてのお見舞い」